

都市伝説講座



Urban legend Course

Yucky argent



キモ
モ
シ
ル
バ
ル
シ

都市伝説① (食事)

食事にまつわる都市伝説

食べ物は偉大だ。我々に健康と体、そして大きな楽しみを与えてくれる。

普段の生活で少しくらい嫌なことがあっても、夕食に美味しい物を食べれば忘れてしまう人も多いのではないだろうか。一人でゆっくり食べてもいいし、多人数で食べれば会話も弾む。コミュニケーションを円滑にする道具にもなるのだ。

だが、直接口から体内に入り、健康に影響を及ぼすものだけあって、様々な噂が生み出され続けている。

おいしい餃子

メディアでも盛んに餃子チェーン店が紹介され、スーパーに行けば冷凍餃子が棚に並び、餃子の皮やひき肉などを買えば自宅でお手軽に作れる餃子は、ラーメンと同様にすっかり日本人の食卓に根付いた感がある。

まずはみんなの人気者、餃子にまつわるお話から—

ある大学に中国人の男子留学生がいた。

とても料理がうまく、特に彼が作る餃子は絶品と評判だった。

ある日、大学で仲の良くなった連中が彼の住むアパートに遊びに行き、料理をご馳走してもらうことになった。

もちろん、彼が作った評判の餃子をつまみにして、大いに盛り上がりようという狙いがあった。友人たちは彼の部屋に通され、彼は台所で自慢の腕を振った。

しばらくすると、餃子が大皿に盛り付けられて運ばれてきた。その餃子は噂にたがわぬウマさで、サークルの連中も大いに満足しながら食べた。

そして、あまりにもおいしさに感動した一人が何故こんなに美味しくできるのか、もし良かったらコツを教えてくださいと尋ねた。

すると彼はサバサバした口調で、

「特に工夫していることはないよ。コンビニで売ってる猫の肉を使うんだ。」

「え、猫!？」

「そうそう、猫のシールが貼ってある缶詰だよ。安くて使い易いんだよね。見ればわかると思うんだ。」

啞然とする友人たちの前に、彼は台所からキャットフードの空き缶を持って現れた。

人体発火現象?

ある男性が、旧友とひさしぶりに酒を酌み交わすことになった。

待ち合わせの居酒屋で顔を合わせた二人は互いの近況を話し合い、それから思い出話に花を咲かせた。久しく会っていなかったのが嘘のようである。

とりあえずビールと言う声で始まった酒と料理も、二人の会話が楽しさと懐かしさを増すにつれ、度数の高いものとなっていった。

元々酒には2人とも強かったので、チャンポン（多種類の酒を一晩で飲むこと。）などはお構いなしに日本酒に焼酎などを次々と飲んでいった。

酒も程よく回ってきて、昔の女に話題が切り替わってすぐに、友人は自分の目を疑った。

燃えている……？

なんと、男性の体から火が吹き出し、前のめりに倒れ込んできたのだ。

一瞬で酔いは醒め、すぐに救急車を呼んだので一命は取り留めたのだが、全身大やけどの男性は重傷を負ってしまった。

この怪現象の原因を調べてみて、意外なことがわかった。

男性が発火する時に飲もうとしたのは、アルコール度数95%を超える極めて強いお酒であった。

彼は指にタバコを挟みながら酒を注ごうとしたために、タバコの火が引火して体が燃え上がってしまったのだ。

胃の中はじけた

学生サークルの飲み会には、悪ノリが付き物である。まだ飲酒経験が浅く自分の限度というものがよくわからないうちに、先輩や周りの人間に勧められ飲み過ぎて周りに迷惑を掛けてしまう。ときには危険な一気飲みで命を落とす学生もいて、度々ニュースとして取り上げられる。

またここでも—

ある大学のサークルで、毎月恒例の飲み会が行われた。

安い居酒屋を半分貸し切るような形で会は始まり、若さと危うさを隣合わせにしながらも宴は盛り上がりつつあった。

大人数が集まると、自分は人と違うと一部の人間がアピールしだすのはネットも現実社会も一緒である。しかも飲み会には女子大生も参加していた。彼女らにいいところを見せようとした男子学生の一人が店に置かれている酒の中で最もアルコール度数の高い酒を注文してストレートのまま飲んだ。まるで喉をナイフで切り裂かれたような痛みと熱さが彼を襲ったが、いいところ見せたかった彼はぐっところえ、「まあまあだね。」とやせ我慢した。

しかし、喉がやけどでもしているように、ギリギリとした痛みが何度も彼を襲っていた。ウーロン茶でも飲んで和らげようとしたが、テーブルの上にはあいにくお酒しかなかった。「まあまあ」と言った手前、水やウーロン茶をオーダーするのも格好悪い。しかたがないので、先程運ばれてきた料理でも食べようと思い、箸を伸ばして唐揚げを口に入れた。

ポシュ！

その刹那、彼の体から聞いたことも無いような異音が聞こえ、驚いた全員がそちらに振り返った時には、彼は机に突っ伏して事切れていた。

後の調べによると、胃に溜まっていた高濃度の酒に揚げたての唐揚げの熱が加わり、胃の中で爆発を起こし、彼をショック死させたのだ。

解説

お酒を呑む人にしてみれば、2つとも怖い話ですね。

彼らが飲んでいたお酒はおそらくアルコール度数96%を誇るポーランドの「スピリタスウォッカ」のことでしょう。

私もアル中時代に3、4回飲んだ経験があります。すでにこの都市伝説を知っていたので、飲むときに一緒に部屋にいた友人には決してタバコを吸わないようお願いしてから飲みました。もちろんかなり多めのジュースや炭酸で割ってから飲みましたが、一度だけストレートのまま唇に付けてしまったことがありまして、しばらくヒリヒリが取れませんでした。もしストレートで飲んでいたら大変なことになっていたでしょう。まさしく最強のお酒です。

ところでこの都市伝説、どこまでが本当なのでしょう。

事例を調べると、数件ですがスピリタスが原因での火傷したケースを見つけることが出来ました。いずれもタバコがやけどの原因となっていて、衣服にこぼしてタバコの火が燃え移り上半身に大火傷したものや、タバコをスピリタスの入ったグラスに近づけた拍子に燃え上がり、驚いてグラス倒してしまい火傷を負ったケースが見つかりました。『人体発火現象?』は本当に起こりうる話だったわけですね。しかしながら、胃の中で爆発したケースを見つけることは出来ませんでした。

この他にもアルコールを飲み過ぎて寝ゲロをしてしまい、それに寝タバコがアルコール度数の高いゲロに引火してしまい、焼け死んだという悲惨な話もあります。

とにかく酒とタバコはほどほどに。初回からなんともキモイ話ですが、ドンドン飛ばしていきますよ。

明太子（提供情報）

インターネットというツールを使って都市伝説の蒐集・発信を行っている、まれに不思議な体験談や身近で広まっている噂をメールで送って下さる人がいる。放送内では「たれこみ」として紹介させていただいているが、今回は舞台を同人誌に移し、送られてきた食事にまつわる恐怖体験をご紹介します。

(メールにて投稿頂きました。ベビードラブ様、ありがとうございました。)

私が小学生の頃、福岡に住んでいた時の話です

福岡名物と言えば、豚骨ラーメン、モツ鍋、水炊き、辛子明太子などがありますが、地元の人が日頃食べているのは、明太子でしょうか。

ウチの食卓にも、ほぼ毎日明太子が常備されていました。

ある夕食の事です、私はテレビ画面ばかり見て行儀悪く食べていました。

すると、妹が突然悲鳴を上げて茶碗を落したのです

取り乱した姿を見て、私は何が起こったのかすぐに理解できませんでした。

妹「メンタイ、メンタイ・・・」

自分のご飯の上に乘せた明太子を、よくみて見ると、丸い粒々では無く、ひょろっと長い物が無数に詰まっていた。

それは、すごく小さなウジ虫でした、

鮮明な記憶では無いですが、中身の半分ぐらいだったと思います

潰け込まれて死んでいた様で、踊り食いじゃなくて本当によかったです。

この明太子は、朝市で露天の行商のおばあちゃんから買った物で、親がクレームを言い、探した様ですが結局見つかりませんでした。

私は今でも中身を確認してから食べています。

解説

食事についての生々しくグロい話は、恐ろしいほどの後味の悪さを覚えます。

私もその昔、茹でたとうもろこしを食べていたら、何か口の中で違和感を感じ、反射的に吐き出しました。

吐き出されたとうもろこしのつぶつぶの間に、ウニョウニョと尺取虫がうごめいていました。

あの体験と似ていますね。

余談になりますが、思い出深い食品の異物混入としては、煮干しの袋に小魚に混じってセミの幼虫が煮干状態になって入っていたことと、コンビーフの中に爪楊枝大の尖った枝が混入していて危うく喉に刺さりそうになったことですね。大好きだったコンビーフですが、このことがあってから6年ほどご無沙汰しております。

はじめに

はじめに

最初を書くが、これは心霊スポットツアーの「失敗」記録である。

体育の先生がお手本を見せようとして失敗し、「今は悪い例だ！」とごまかすような事をしようと思わない。

これは、主催者の目論見違いで参加者のみなさんに迷惑をかけてしまった「失敗した」心霊スポットオフの記録として見て欲しい。

0. 発端

0. 発端

前回の同人誌が予想に反してそこそこの好評を頂き、続編が欲しいという声が聞こえてきたような気がしたので、新しい同人誌を作る計画が脳内で持ち上がった。

都市伝説の同人誌なのだが、心霊系の話も需要があるようなので、今回もリスナーさんとのオフ会を兼ねて心霊スポットを巡ることにした。

場所の選定にはかなり時間をかけ、参加してくれる人数が多そうな東京都内のスポットを電車を使って移動することにした。（これが後の失敗につながるのだが.....）

1、江古田の森公園

1. 江古田の森公園

ルートを考えた結果、集合場所は新江古田駅に決まった。

「いいですか？集合場所は江古田駅じゃなくて、新江古田駅ですよ。紛らわしいからって、絶対に間違えないでくださいね！プンプン！」

……と、鼻息荒く何度も確認していた私が集合場所を間違え、江古田駅に出てしまった。

しょうがないので、新江古田駅まで歩くことにする。

途中で偶然、人気グルメ漫画「孤●のグルメ」に出てきた洋食屋さんを見つけた。まだ集合までにだいぶ時間があつたので、店内に入りスタミナを付けるためスタミナ定食をオーダーした。

「孤●のグルメ」の主人公もこの味を食べたのかぁ……と思いながら箸をすすめる。

量が半端じゃなく多かったのが、残念ながら少し残してしまった。

申し訳ない気持ちで店を出る。お仕置きで店員にアームロックでもされてしまうかと怯えていたが、そのような報復措置はなかった。

集合時間の15分ほど前に新江古田駅に着いた。

地下鉄なので外よりも過ごしやすいが、待ち合わせまで座れるベンチはなかった。

改札前の壁にもたれかかって時間まで待とうとすると、

「こんにちは、お久しぶりです。」

と声をかけられた。慌てて振り向くと、都市伝説オフにも参加されたことのあるリスナーさんが立っていた。

どうやら私の顔を覚えていてくれたらしい。

世間話をしていると、改札から出てきた人やあらかじめ構内にいた人が集まってきて、

気がつけば本日のオフの参加予定者全員が集まっていた。素晴らしい。

簡単な自己紹介の後、本日の簡単な予定を説明して駅を出る。

地上に出ると、まだ高い日差しがまぶしかった。

新江古田から300m程歩いたところに、江古田の森公園はある。

ここは、一部の怪談好きの中でもっとも恐ろしいとされる場所である。

怪談師のIさんは江古田の森公園が最強の心霊スポットであるとしていて、

知り合いの霊能力者に江古田の森公園を勧めたところ、霊能者は恐ろしくてこの公園に入ることができなかったという。

今のように公園になる前は、この場所には病院が立っていた。

廃院となった建物にはすぐに霊が出るという噂が立ち、当時からかなり注目された心霊スポットだったようだ。

大人の事情で書く事はできないが、ここに纏わる話を怪談師のIさんから聞かされたときは、鳥肌がたったものだ。

地図で周りの地形を見ると、公園を不自然な形で川が取り囲んでいるのが分かる。この川が結界の役割を果たし、内部に在る「禍々しいもの」を外に出さないようにしているという……

まさに、今回行われる心霊ツアーの最初にして最恐の場所と言えるであろう！

.....しかし、うっすら汗ばむ陽気とサンサンと輝く太陽は、最強心霊スポットを住民達が憩う穏やかな公園に変えていた。

公園の入り口からは、広場でスケボーしている若者や、ベンチで談笑するおばあさんたちが見える。

子ども連れの家族も何組かいるようだ。

心霊の「し」の字も感じることはできない。

しかし、靈感の強い人ならこの辺りですすでに何らかの変調が起きているはず。

私は後ろを振り返り、参加者の中にいるであろう霊障を起こして弱っている人の意見を参考することにした。

.....が、全員びんぴんしていて、「なんだか聞いていたイメージと違いますねー」などとゆるい話をしていた。ちなみに今回の参加者は、私も含め全員靈感がないとの事。

結界の代わりをしているという、小さい橋を渡って園内に入る。

案内板を見ると、憩いの場所となっているのはどうやら東側のほうだけで、西側は木が多い遊歩道となっているようだ。

「では早速参りましょう。心霊スポットとして恐れられているのは園の西側です。軽く一周して心霊体験、奇跡体験を満喫しましょうYO！」

と場を盛り上げる発言をし、回りの恐怖を軽くあおる。こういうのも主催者の務めである。

だが、いかんせん周りは明るかった。公園の内部に敷かれたアスファルトの歩道を、ゾロゾロと怪しい男の一団が左右をきよろきよろと眺めながら歩いている。

その様はまさにピクニックといった感じである。



(野鳥観察用の池もある。)

この怪しい一団が遊歩道から少し奥に入ったあたりで、先頭を歩くひとときわ怪しいデブが口を開いた。

「例の写真はどうやらこのあたりで撮られてみたいなんですよねえ。」

例の写真とは、知り合いのHさんが都市伝説オフ会で披露して下さった心霊写真のことである。

撮影地はこの江古田の森で、深夜に撮影された。夜の森を撮ったときに真ん中に写る木の右から不気味に伸びる腕がはっきりと写っていたかなり怖い心霊写真である。

写りこんだ腕も異様で、人間のものでは断じてない。



(このあたりで心霊写真が撮られたらしいのだが.....)

しかし、住み慣れた町でも昼と夜とで違う風景に見えるように、初めてきた場所で夜に撮られた写真の場所を昼間に特定することはできなかった。。

おそらくここではないだろうかと当たりをつけたところも、容赦なく漏れ出す多量の木漏れ日のせいで、ただの歩道脇の風景にしか見えなかった。

結局、一部の人間からは最強説も出ていたこの心霊スポットを我々は20分程度で一周してしまい、早々に駅へと戻った。公園で最後に見たのは、芝生の上でごろ寝をしているどこかのおっちゃんだった。

終始怖くなさそうな書き方をされていて誤解されるかもしれないが、私は一人で夜にこの場所に入る勇気はない。

園内を歩きながら『もし、ここが闇に包まれたら.....』という想像を頭の中で繰り返していると、昼間は押し殺されている公園内の不気味な雰囲気徐徐に増幅されていくような気がした。

あと8時間来るのが遅ければ、多人数でも入り口で躊躇していただろう。

江古田の森、ここにはやはり何かあるのかもしれない。

江古田の森公園

アクセス

西武池袋線 江古田駅から徒歩15分

都営大江戸線 新江古田駅から徒歩3分

※現在は敷地の南側に福祉施設がありますが、心霊スポットとは一切関係ございません。

2、東池袋中央公園

2. 東池袋中央公園

江古田を出発した我々は電車に乗り込み、次の目的地へと急いだ。さすがに車内では周りの目もあるので、エロ・グロ・ナンセンスな話はできず、仕方が無いので先程の道中にあったパチンコ屋の「ガチ愛」なるイベントの信頼度について語り合っていた。

パチンコの話をしていると俄然熱くなり、直江兼続のモノマネを決めたところでちょうど池袋に到着した。利用客の多い駅なので、大勢のお客と一緒にホームに降りる。電車での移動は降車駅のチェックや構内での移動が地味にキツイ。大きな駅や多数の路線が乗り合わせる駅なら尚更だ。ポカポカ陽気が今日は恨めしく感じる。

池袋駅から出ると、人ごみから発せられる熱の影響で、構内よりも数段暑苦しい。どこを見ても人・人・人である。それもそのはず、某大型家電量販店が池袋に本格進出し、長引く不況のため「少しでも安く家電を」と、たくさんの人が池袋駅からパチンコの出玉のごとくワラワラと引きも切らずに排出され続けているのだ。

そんな中、メインストリームから外れた6発ほどの玉が駅のさらに東側にあるサンシャイン方面へと転がっていった。先頭をいくのはパチンコ玉と見間違えそうなほど丸っこい男だ。しばらく迷ってから後ろの参加者を気にしながら愚痴をこぼす。

「うえ～、人大杉。たしかこの辺なんですけどねえ。だれか～サンシャインってどこかわかりますか？そこの隣なんですよ。人ごみのせいでわかんないですよねえ。」

すると、頭のよい参加者の皆様は黙って高いビルに向けて指を指した。なんという頭のよさ。高層ビル立ち並ぶ都会とはいえ、少し視線をあげて辺りを見ればサンシャインはいやでも目立つ。そのふもとへ向かって歩けばいいわけだ。



(見上げればサンシャイン)

結局、地図の上では近いはずの、東池袋中央公園まで大分回り道をしてしまった。

東池袋中央公園、サンシャイン60に隣接するこの土地に昔何があったのか知る人は年々少なくなっている。(サンシャインも含めて)

なぜ池袋の一頭地に、こんな巨大な建築物と付随するような公園ができたのか、それは明治まで遡る。

明治30年、この場所に『巣鴨監獄』が建てられた。多数の犯罪者が刑を受けた場所である。それから15年ほどして刑務所としての機能を府中に移し『巣鴨拘置所』と呼ばれるようになった。この頃には、日本全体が戦争への道を歩み始めていた。

そして終戦—

GHQは巣鴨拘置所を取り上げて名前を『巣鴨プリズン』と改める。プリズン(牢獄)に入れられたのは、戦犯と呼ば

れる人々だった。

昭和21年から極東軍事裁判が開かれ、A級、B級、C級戦犯が約四千人が収容されていた巣鴨プリズンでは死刑判決を受けたおよそ60名の刑が執行された。戦時中に内閣総理大臣を務めた東条英機などのいわゆるA級戦犯7名も絞首刑となった。執行日は現在の天皇陛下の誕生日である12月23日を選んだとされる。

裁判が終了して連合軍から返還された後、巣鴨プリズンは『東京拘置所』名前を変えた後、小菅に拘置所が移されたことで完全に解体され、昭和53年にサンシャインシティとして生まれ変わった。昭和55年に東池袋中央公園も完成し、平和の碑が建てられて現在に至る。

巣鴨プリズン内でも絞首台が建てられた場所がこの公園だといわれ、60人の命が露と消えた場所ということになる。

そのためか、心霊現象も多く報告されており、

- ・人魂の目撃談や謎の足音に息遣いが聞こえる。
- ・慰霊碑近くであやしい影を見た。
- ・近くの電波が届かないはずの地下通路で差出人不明のメールを受信する。
- ・兵隊姿をした幽霊の目撃談。
- ・作業員が謎の体調不良。
- ・石碑を撮影すると心霊写真が撮れる。

など、その数は多い。

華やかな街であるはずの池袋にあるこの公園こそ、心霊スポットでもあり、歴史の裏に隠された特異的な場所といえよう。



(ここが正面の入り口らしい)

石のプレートにはしっかりと「東池袋中央公園」と刻まれているのを確認し、我々は心霊スポットへと乗り込んだ！

.....が、公園内は駅前と同じく人でいっぱいだった。

そして、江古田の森公園と同じくスケボーをする若者に家族連れ、噴水の辺りでは子どもが遊んでいる。

雰囲気がち壊しもいいところである。

参加者全員が『あちゃあ.....この公園混雑だ.....』と言った感じで、一様に顔をしかめながら、公園名物の段差付きの噴水の横を歩く。人とのすれ違いに気を使わなくてはぶつかってしまい

そうだ。

敷地面積6000平方メートル、縦60メートル横100メートルの都内では結構大きい公園なのだが、1分もかからずに奥へと到着してしまった。

公園奥にはヤマモモにモッコクが植えられていて、木陰が設けられていた。（公園入口にも落羽松が植えられて紅葉の時期には楽しむことができる。）都会の貴重な緑を満喫しようとするのも分からないでもない。また、暑い日だったので、園内の噴水が一層涼しそうに感じた。

だが、池袋駅から徒歩10分、サンシャインまで徒歩1分で行けるこの超好立地に、家賃が無料と思われるブルーシートを使った住宅が立ち並び、独特の壁を公園内に作り出していた。ホームレスのおっちゃんたちがのんびりと暮らしていたのだ。

天気の良い昼下がりにビニールハウスを出て仲間とベンチで将棋を打っている人までいた。かなりびっくりしたが、私が体験したいのとは違った種類の恐怖であるのは間違いない。

ビニールハウス前をとりあえず一回りして、何の収穫も得ることができないことを知った我々は完全に意気消沈し、ベビーカーを押す新婚さんとぶつかりそうになりながら入り口まで戻ってきた。ここまでの滞在時間およそ3分。

いよいよ帰るしかないと思っていると、公園の入り口近くの角に石碑を見つけた。

これが平和の碑といわれる石碑だ。遠くからでも周りに掃除が行き届いているのが分かる。さすがにいたずら書きやポイ捨てをする輩はいないようだ。

近づいてみると、石碑の前には新しい花が沢山供えられていた。どのような人が世話をしているのだろうか？ネットで調べると、海外に派遣される自衛隊員の家族手紙などが置かれていることもあるようだ。

ふた抱えほどもある大きな石に簡潔で重い言葉が彫られている。



（供えられている花は多く、そして新しい。）

『永久平和を願って』

石碑に刻まれたこの思いが通じる日は来るのだろうか。

もう一度公園内を見ると、サンシャインよりの横から降り注ぐ太陽の光の中で、休日を満喫する多くの人の平和な笑顔があふれていた。此処を見ただけでも良かった。

私は石碑を振り返ると軽く目を閉じ、静かに手を合わせた。

（石碑裏には、極東国際軍事裁判で裁かれた人がこの場所で処刑されたことと石碑が建てられた日にちが記されている。）

「きもじいさん、ちょっといいですか？」

参加者のゼニガメさん（仮名）からいきなり声をかけられた。

「そういえば、ここの近くにもう一箇所有名なスポットがあるんですよ。一部の人からは怖くて近寄れないという話も出ていて、心霊スポットとっていい場所かもしれません。」

「どこですか、それは!？」

私の声は少し震えていた。正直にいうと、先程からこの近くにただならぬプレッシャーを感じていたのだ。

「ほら、すぐそこですよ……」

彼が指さした道路の向こう側には、『乙●ロード』と呼ばれる異界が大きく口を広げ、年頃の乙女たちを飲み込んでいた。

その強大無比な力にとても敵う相手ではないと一瞬にして悟った我々は、異界を遠巻きに見守りながら駅への道を急いで引き返した。

東池袋中央公園

住所：東京都豊島区東池袋**3-1-6**

アクセス：東京メトロ有楽町線東池袋駅 徒歩5分

JR池袋駅 徒歩10分

03-3981-0534（豊島区公園管理グループ）

※ウィキペディアにも書かれていますが、夜は治安関係とホームレスが多数いるため一人で立ち入ることは避けたほうがいいでしょう。

3、平将門公の首塚

3、平将門公の首塚

割愛。完全版にて。

4、決断

4、決断

「ううえええええええい！！！！疲れた疲れた疲れたよ～～～！！！！ほ～～ら疲れた！！」
疲労困憊の私はとうとう我慢の限界を超え、地下鉄の構内で叫び声を上げた。

正確な距離は測っていないが、午前中を含めてかなりの距離を歩いてきた。（この日の午前中、別の同人誌に掲載予定の東京パワースポット巡りを一人でしていたのだ。）

これほど歩いたのは何年ぶりだろう。しかもすべてが舗装がされ尽くしてある場所ばかり。ピザデブの膝と腰に深刻なダメージを与え続け、某駅の地下通路で私の心はとうとう折れてしまった。

驚いてこちらを見る参加者。

ひとつ深呼吸をしてから、私は口を開いた。

「久々にキレちゃったよ。レンタカー屋行こうや。」

電車＋徒歩に見切りをつけ、レンタカーに全員乗り込み移動することにしたのだ。

参加者の慶次さん（仮名）と分担してレンタカー屋に電話をかける。

すると、近くになんとか6人乗りの車が借りられるところを発見した。

最後の電車だとみんなを叱咤激励し、レンタカー屋に到着した。前回の八王子心霊オフ以来のレンタルである。

店員に6人乗りの車を見せてもらって、みな啞然とした。

目の前の車は確かに6人乗りなのだろうが、どう見ても工事現場で使う資材を運ぶような車で

、前に3人、2列目に3人、それより後ろは荷物置き場として使うのか、席はなかった。（いわゆるハ●エースタイプの車。）

「リア充が卒業旅行で使うような3列シートの車は有りませんか？」

と店員に聞くと、

「似た車はついさっきまで合ったのですが、それはリア充サークルの人たちがレンタルしていききました。

人間だが資材だかわからねえクソピザには、このお車がお似合いだと思いますよww」

と完全論破され、涙ながらに契約書にサインした。

レンタル予定は6時間。

残りの予定スポットは3スポット。遠くの場所もあるが、十分な時間設定だろう。

「みなさん、いろいろ有りましたが、これからは車での移動になります。大幅に楽になりますし、電車内ではできなかったようなトークも話し放題です。張り切ってまいりましょう！俺たちの戦いはこれからだ！」

みんなを勇気づけると、私はそそくさと助手席に乗り込んだ。

運転下手な上に免許を持ってきていなかったので、運転はゲバラさん（仮名）にお任せすることにした。どこまでも格好悪い。

全員が乗り込んだのを確認すると、エンジンをふかし、心機一転、次の心霊スポットへハンドルを切った。

「さあ行こう、行こうぜみんな！俺たちの戦いはこれからだ！」

ご愛読ありがとうございました。きもいおじさん先生の次回作にご期待ください。

都市伝説検証（風邪治し編）

※この話は2009年末に検証したものです。

だるい。

ポケ〜ツとしている（ように見える）のはいつものことだが、今日はとりわけ体がだるい。

一昨日、とうとう同じ部署から新型インフルエンザが出たので、まさかと思い、机の中から体温計を取り出す。昨日は35.2℃の平熱だった。（運動しないピザは平熱が低い）

しばらくして体温計をわきから引き抜く。腋臭臭いのを我慢して表示をみると36.8度もあった。一般人の体温に換算すると、37度の後半である。熱っぽいのも当たり前だ。

私はオドオドしながら、机から鬼門の方向にある部長のデスクまで進み出た。熱心に仕事をしている部長に、熱が高い事と新型インフルエンザの可能性があることを告げると、さっさと退社してよいとの指示を受けた。一昨日の同僚のときと一緒に、新型インフルエンザにはどこの会社もピリピリしているようだ。

ただ一昨日と違ったのは、部長以下誰も私に対して心配の声をかけてくれなかったことである。

病院に行くと、インフルエンザ専用診察室に通された。しばらく待ち、簡単な問診を受けると、新型かどうかを検査するといって、細長い管を鼻の奥深くまで突っ込まれた。これがとても痛い。管が鼻の最深部まで行って、グニユリと下に折れ曲がるのが分かった。あまりの痛さにぼろぼろと涙を流した結果、新型インフルエンザではないが、扁桃腺が腫れているという診断をされた。つまり「普通の風邪」である。1週間も会社を休まなければならない新型ではないことが分かり、ホッと胸をなでおろした。

だが、それと同時に、『せっかくだからあの都市伝説を試してみるか……』と帰宅途中に思い立ったのだ。

私がこのチャンス（！？）に試そうと思ったのは次の都市伝説である。

一人暮らしをしている人は風邪になると面倒である。

医者にかかるのももったいないし、実家住まいのときのように薬を常備している事も少ない。

かといって、軽い風邪なのにわざわざ高い薬を買って、残りを余らせてしまうのも馬鹿らしい。

そんな人にお勧めな風邪の治し方がある。それは安い回転すし屋に行って、ハマチを食べるだけというもの。

なぜこんなことで風邪が治るのかというと、ハマチは養殖物が多く、店に並ぶまでに多量の抗生物質が使われるので、それを食べた人間の風邪や病気に効果があるというのだ。

人の目さえ気にしなければ、100円で風邪が治る、魔法の節約術でもあるのだ。つるセコー！

家で一休みをしたが、会社と同じように体がだるい。

ダメで元々、重い体（元々重量感抜群）を車に滑り込ませ、最近開店した一皿100円の回転すし屋に向かった。

「いらっしやいませ！何名様でしょうか？」

女性店員の質問に、私は黙って人差し指を突き立てた。『一人です。友達いません。』と、無言のメッセージを送る。こういうことには慣れている。

私は新しい店でも物おじせずに椅子に座り、目の前にあるタッチパネルを使い、問題のハマチをさっそく2皿注文した。

3分ほどで風邪薬を乗せた皿が流れてきた。手に取りながら、本当に効くのだろうかとやはり不安になった。

だが、イワシの頭もなんとやらということで、イワシでなくハマチを口に放り込んだ。

結局、ハマチ2皿にサーモンを2皿、玉子を1皿食べて店を出た。食べた直後の体調には全く変化はない。当然と言えば当然だが、こんなことで風邪が治るのだろうか。

この日はいつも通りに、夜12時ごろまでニコニコ生放送をして、眠りについた。

翌日。起きてからしばらくして、昨日よりも体が軽いことに気付く。

まさかと思い、出社一番で机から体温計を取り出す。

……35.6度！

驚いたことに、熱はすっかり引いていた。これがハマチに含まれる抗生物質の効果なのだろうか。

この日の午前中はキツネにつままれた気分です仕事をするようになった。

相変わらず私の具合が良くなったかどうかについては、誰も触れてくれなかった。(完)

都市伝説検証コーナー、いかがでしたか？

私も実のところまだ信じられないので、これから風邪をひかれた方のハマチ療法体験談を募集しています。

風邪の治療方法には他にも、アナルにネギを突っ込んで寝ると風邪が治るといふ、都市伝説といふか民間療法があります。噂によると、コチラのほうが圧倒的に効き目があるそうなので、同時にアナルネギ療法体験談も募集しています。

都市伝説② (人体・科学)

人体・科学にまつわる都市伝説

21世紀に入って10年が経とうとしています。科学技術は日々目覚ましい進歩を遂げ、遺伝子レベルでの治療や分析が盛んに行なわれるようにもなりました。

しかし、まだまだ人体には未知の部分が多く、研究者たちを明日の研究へと駆り立てています。

ですがそんな隙間を付いて、人体や科学にデマや噂が入り込んでくるのです。

そして、これが成長すると、疑似科学が生まれます。マイナスイオンやゲルマニウム関係の商品を優先的に買い漁った人はいませんか？

人体・科学とは、時代の最先端を進んでいるように見えますが、一度油断をすると、オカルトが跳梁跋扈するようになる、とてもデリケートな分野と言えましょう。

ここではそんな人体・科学分野の都市伝説を見ていきましょう。少しだけ気持ち悪いものを。

医者に必要なモノ

ある大学にある医学部教室で、講義が行われていた。

この日は糖尿病についての講義であり、教授は学生たちに諸症状や糖尿病患者の特徴を教えていた。

「・・・以上が本日の講義である。最後に講義内で取り上げたⅡ型糖尿病患者の尿を実際に観察して終わりとする。」

そうやって教授はビーカーに注がれた尿を教壇の上にゴトリと置いた。

「尿の臭いで糖尿であるか大体分かるのだが、万全を期すにはこうすればいい。」

そういうと、ビーカーに指を一本突っ込んで、指を舐め始めた。

「医者たるもの、患者の気持ちと状態を心から理解するためにこれくらいのことをしなくてはいけない。医者には勇気が必要なのだ。だが、君たちはまだ若い。これをやるのは難しいだろう。もし、これと同じことができれば次回のテストで30点上乗せしてやろう。」

30点という魅力的な点数に惹かれ、ある男子学生が手を上げた。

「や、やってみます。」

彼はビーカーの前に立つと、生徒の見守る中、こわごわと指をビーカーに入れて、目をつぶってその指をなめた。

「なるほど、君はすごいね。素晴らしい勇気を持っている事だろう。しかし、勇気の他に医者にもう一つ必要なモノがある。それは冷静な観察力だ。よく見たまえ。」

そう言って、教授は先ほどの動きをスローで再現した。教授はゆっくりと中指をビーカーに浸して、それを口元の持ってくる途中で人差し指に切り替え、何も付いていないその指を舐めた。

つまり、教授は患者の尿など舐めていなかったのだ。

解説

各地の医学部に、まことしやかに伝わっているとっても有名な噂です。漫画(研修医なな子)にも取り上げ

られたので、知っている人も案外いるのではないのでしょうか。（海外コメディ映画でもネタにされたことがあるらしいが、タイトル不明。）

30年ほど前には医学部で流れていたというから、かなり長寿の都市伝説だと言えましょう。

この源流はさらに古く、シャーロック・ホームズの作者であるコナン・ドイルの学生時代である100年以上前に遡ることができます。

ドイルが医学部で学んでいた時の恩師、ベル教授のエピソードが元になっているそうです。現在の形と殆ど同じですが、舐めるのは患者の尿ではなくひどい味がする試薬になっています。

余談ですが、ベル教授は冷静な観察力を考える力の大切さを生徒たちに熱心に説いて、患者の状態から何処が悪いかというだけでなく、職業や家族構成まで見事に当て、史上最も有名な探偵であるシャーロック・ホームズのモデルにもなりました。

おまけに、さらに強化(?)された話を紹介。

医者に必要なモノ 2

某大学の医学部に伝わる話一

その日、何回目かの解剖実習が行われる予定だった。

学生たちの前にたった教授は、解剖にも慣れつつある生徒たちを前にこう言った。

「いいかね、君たちもそろそろ解剖に慣れてきたようだが、私に言わせればまだまだである。自分の体を献体として提供してくれた人の気持ちは素晴らしい。そこまで理解しないと真の医者とはいえないだろう。本当に献体をしてくれた人の気持ちをわかりたいのであれば、これくらいのことができなくてはいけない。」

そう言うが早いか、教授は自分の指を献体の肛門に深く挿し込み、引き抜いた指をペロリと舐めた。

あまりの出来事に学生たちは言葉を失った。

「どうだね、医療機器は日進月歩の進化を遂げているが、最後に頼れるのは自分の経験だ。もし君たちの中でこれと同じことが出来る人間がいれば、私の授業の単位をあげよう。」

いくらなんでもそんなことができるわけがない…… 学生たちはたじろいだが、彼らの中から一本の手が上がった。

「ボクがやります！」

行動力がウリの活発な男子学生がそう言い切った。彼はツカツカと教授の近くまでやって来た。

全員の前に出ると、さすがに緊張する。しかも、これからやることは彼の人生で空前の行動である。やっぱり出来ませんと謝ろうと考えたが、やはり単位はとても魅力的だ。その時間を別のことに使うことができる。

大きく深呼吸をして、彼は指を献体の肛門に差し込み引き抜くと、躊躇いながらも迅速に指を舐めた。

生徒たちから大きなよめきが起った。

彼は口の中の表現しがたい感触と臭いに、今にも失神しそうなのを我慢しながら教授をドヤ顔で睨みつけた。

「素晴らしい。まさかやってくれる学生がいるとは思わなかった。約束通りに単位をあげよう。君のような勇氣は医者にとって大切だが、それ以上に大切な物に冷静な分析力がある。」

教授は再び献体の肛門に指を突っ込んだ。しかし今度は動作が遅い。よく見ると、肛門に突っ込んだ指は中指で、なめまわしたのは人差し指であった。

男子学生はまんまと教授にハメられたのだ。

死を呼ぶ念波

電子機器にも怨念が宿り、周囲に影響を及ぼす—

有名ホラー小説「リング」で有名になった設定である。

ビデオテープに強い念が入り、見たものを死に誘うというストーリーはジャパニーズホラーの新境地を開拓した。

だが、そのブームの50年前に、リング顔負けの電波による殺人が行われたのを知る人は少ない。

これは、第二次大戦終盤に起こったとされる話である。

第二次大戦は戦艦に代わり航空機が戦闘の主体となり、多方面の科学技術を大幅に進歩させた。

だが、科学技術の他に、オカルト的な物の軍事的利用もされた側面を持つ戦争でもあった。科学とオカルトが共存した大規模な最後の戦争こそ、第二次世界大戦なのだ。

第二次大戦終結直前にアメリカの大統領が急死した。

史上唯一の大統領四選を果たしたフランクリン・ルーズベルトである。

戦時中の大統領の死はアメリカは大きな衝撃を与えた。

実はこの裏に敵国のオカルト工作が働いていた。

戦況が不利になった敵国は、急死するしばらく前から国内の位の高い僧侶を集め、呪文を電波に乗せてアメリカへ発信し続けたという。目的なもちろん大統領ルーズベルトの死である。

この試みは見事成功する。濃縮された呪文が原因となって、ルーズベルトは急死したのだ。

そして、電波に呪いを乗せるという手法を使った敵国こそ、50年後に「リング」を生み出すことになる日本だったのだ。

解説

フランクリン・ルーズベルトが亡くなったのはドイツ降伏の2ヶ月前、日本が終戦を迎える4ヶ月前のことでした。公務中に脳卒中で倒れ、意識が戻らぬままなくなりました。

日本とドイツでは大々的に報道され、特にヒトラーは狂喜乱舞して大々的な批判声明を発表しました。

日本では古来より外敵の襲来や国家の存続が危ぶまれる危機を迎えると、●●●●●秘法という儀式が執り行なわれ、敵を調伏するための祈りが捧げられることがありました。

平将門の乱、元寇、日清日露戦争に秘法を行い、その都度日本を未曾有の危機から救ったとされています。

問題の太平洋戦争中にも、秘法が京都の某寺で使われたことはほぼ事実のようです。ただ、電波や科学機器を用いたかまではわかりませんでした。

まあ、この呪殺は開戦当初から行われていたようで、それから効果が出るまで3年以上経っていることから考えて、どれほどの効果があったのかわかりません。いや、そう思いたいものです。

ただ、ネットの噂によると、この電波呪殺の関係者の中にまだ御存命の人物がいるとか。

どのような手順で呪殺が行われていたのでしょうか。特の高い僧侶たちが一心不乱に人の死を願う……異様な雰囲気の中で行われていたのは間違いのないことでしょう。

ルーズベルト大統領急死の後、新しい大統領にトルーマンが就任しました。ルーズベルト大統領ならば使用する可能性は低かった原子爆弾を投下され、日本は多くの尊い犠牲者を出してようやく戦争が終結しました。

とにかく、もう科学やオカルトにかかわらず、戦争のない世の中になって欲しいと願うばかりです。

あとがき

いかがでしたか？「都市伝説講座 キモシルバー」。

「キモ（キモい）シルバー」のタイトルどおり、ちょっと気持ちの悪い話を集めてみました。

楽しんでいただけましたでしょうか？一瞬でもニヤリとしてくださったのであれば、これに勝る喜びはございません。

この本に書かれている話は、基本的に人前でしてはいけない話です。

特に「初対面」「異性」「食事中の人」「合コン」では絶対にNGです。

職場や学校でもしない方が賢明でしょう。周りから人がいなくなって、便所飯コースです。

都市伝説には面白いものから怖いものまで、様々な話があります。

ですが、テレビや雑誌などのメジャーなメディアで取り上げられるのは、その中でもごく一部です。

過剰なエロ・グロ・ナンセンス・差別表現ができない事がその理由です。例えば、有名都市伝説のダルマ女も最近では正確な再現VTRを流すことができません。（だるまの表現は一切使われず、「変わり果てた姿になっていた～」というマイルドな表現しかできませんでした。）

しかし、人間というのは残酷なもので、キモい話や差別的な話ほど噂として好んで流してしまうのです。一度もテレビで流れたことのない黄色い救急車の都市伝説が全国的に広まっているのが良い例でしょう。

いろいろな人の前で都市伝説を語ることが多くなりましたが、怖い話とテレビでは流せないキモい都市伝説をリクエストされることが多いです。私にナウくて女性ウケの良い話を期待していないだけかもしれませんが。

すべての人がそうだとは言いませんが、みんな人の不幸話や悲劇的な話が好きなのです。そこにグロとナンセンス、差別のスパイスをかけ、本当かどうか分からないソースと一緒に煮こめば立派なキモい都市伝説の完成です。

私も性根が腐っているので、モテゴールドよりもキモシルバーの方がスラスラと書けました。

人間が存在する以上、これからもキモくて蠱惑的な都市伝説が生まれていくことでしょう。

2010年8月某日

レーシックの禁則事項に触れて無念の夏コミ不参加を決めて身悶えながら

きもいおじさん

おくづけ

表紙を書いてくださった方からコメントを頂きました。

ありがとうございます！

(まだ貰っていません。半分勝手に使わせていただきながら、申し訳ありません。素晴らしい表紙ありがとうございました！)

おくづけ

都市伝説講座 キモシルバー

発行日 2010年8月15日

発行人 きもいおじさん

URL <http://com.nicovideo.jp/community/co294>